

琵琶湖・CO₂ネットゼロ対策特別委員会

- 1 開催日時 令和3年10月5日（火） 9時59分～12時18分
- 2 開催場所 第一委員会室
- 3 説明員 総合企画部長および関係職員

4 議事の概要

(1) (仮称)滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくり推進計画(素案)について

委員からは、滋賀県の森林が吸収する収支計算を具体的に示し2018年度44万トンが2030年に28.4万トンに減るのかその上でどのような対策をとるのかを示されたい、熱の取り扱いについて記載が乏しい、発電機関で熱を製造して電気に変換を行い、電線で送電し、また熱に戻すため非常にエネルギーロスが大きい、特に家庭部門や産業部門において、熱エネルギーを見つめ直されたい、温室効果ガス削減目標の温室効果ガスを2013年度1,422万トンから2030年度711万トンを目標にしているが、既に294万トン削減できたのであれば、2030年度の目標値は妥当なのか、また削減内容の分析を行い、効果的に今後の施策に活用されたい、2030年の中期ビジョンにとらわれず、2050年にゼロとなるようにバックキャストを行うこととされたい、KPIは県内における何件増加とか何台普及ではなく、どれだけCO₂を削減したかを示されたい、県がどうしたいのかという姿勢を示すために、県内の民間等含めたCO₂ネットゼロに必要な費用または、県予算(特に県における率先実施)はどのくらいか示されたい、実際県民が身近になるように1軒のCO₂ネットゼロに必要なお金の出入りがわかるイメージが必要ではないか、市町との連携推進において、温暖化防止に係る地方公共団体実行計画制度を計画している市町への支援を行われたい、本計画の素案に対して温暖化の問題、地球の持続化の問題、世界の流れから危機感を持って対処すると提起されている、その危機感の共有がムーブメントにも繋がるので前段になぜCO₂を削減するのかを示されたい、などの意見が出された。



委員会で配付された資料

- 1-1 (仮称) 滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくり推進計画(素案)
- 1-2 (仮称) 滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例(素案)
- 1-3 滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりに向けた現状と推移